

レコード産業における新技術・新サービスの普及と利権構造の相互作用的变化 —経時的構造化フレームワークによる分析—

鷲津数聖

<研究の概要>

問題意識・研究の目的

レコード産業¹は、歴史的に新技術やサービスの登場で産業の構造が変化してきた。しかし、普及しなかった技術やサービスも存在する。レコード産業では、利権者・使用者が相互に作用して技術やサービスを変化させてきたようである。この研究では、経時的構造化フレームワークを使い、レコード産業における新しい技術や新しいサービスの普及において、何が普及の条件になるのかを、変化のプロセスを分析する一般性のあるモデルを使って提示したい。そのために、成功例と変化の失敗例の両方について、その普及プロセスと普及失敗プロセスのメカニズムを分析できる、分析のためのモデルの提案をする。また、そのコントロールをするための理論を提案する。

研究の内容

経時的構造化フレームワークとは、ギデンズの構造化理論を発展させた、小坂武(2000)²の弁証法的構造化フレームワークをもとに、様相のスク립トが構造・相互行為に対し、意味・支配・正当性のどれに作用したのかを分解したものである。

本研究では、行為者の誰かにとって、「意味」の変化をもたらす技術やサービスを新しい技術やサービスと呼んでいる。

新しい技術やサービスの登場で、利権（レコード会社・作家など）側と使用者（ユーザー、技術・サービス提供者）側との間で、それぞれにとって一定のレベルで意味を満たすことを前提に、支配・正当性をめぐる相互行為が行われる。意味・支配・正当性の3つの構造が安定したとき、普及する条件が揃う。意味は技術やサービスの効用や経済的価値、正当性は行為の社会的道徳性のこと、支配はある行為者が自らの行為を強制で

¹この研究では、音楽産業とレコード産業について、コンサートをはじめさまざまな音楽活動を扱う産業を音楽産業とし、その中の、CDや音楽配信などを扱う業界をレコード産業とする。また、レコードとは、特に指定の無い限り、アナログディスク、CD、テープなどを含む広い意味の音楽レコード指す。

²小坂武(2000),「解釈学的構造化の記述フレームワーク」,『経営学研究』,第9巻第4号,2000年

きる社会的背景のことである。

その3つが揃わないとき、利権側・使用者側にとって、一定のレベルの意味が満たされることを前提に、どちらかの行為の前提となる構造が変化する必要がある。

事例

- ・ レンタルレコードの事例を取ると、サービス業者（使用者）側が既に相当な普及していることを支配力にし、利権側の構造を変化させ和解するに至った。
- ・ ナップスターの事例では、利権側が既存の著作権意識（正当性）や法的支配力によって、既に相当な普及をして支配力を持つ使用者側のナップスターの事業を、無料共有から撤退させた。しかし、相当な普及は、利権側の構造にも作用し有料配信への道を開いた（意味の変化）。結果、（意味と正当性）構造を変化させ配信に業態変更したナップスターは生き残るに至った。
- ・ C C C Dの事例では、利権側は正当性と支配力を持って、C C C Dを導入し、違法コピーなどで損なわれていた意味（経済的価値）を満たそうとしたが、使用者側からの支持が得られず、結果、意味を満たせなくなり、C C C Dを撤回せざるを得なくなった。

まとめ

この研究の成果は、「経時的構造化フレームワーク」を提案し、それを使った分析を行う上での簡略化モデルの「技術・サービスの変化と構造の支持モデル」と「スクリプト影響と構造変化パターンモデル」を提案したことである。

そして、レコード産業の歴史的変事例の分析の結果、構造の変化にはパターンがあることがわかった。技術やサービスの内容変化は、利権と使用者の間で意味の変化を生むことがある。事例のように利権側や使用者側の利益が損なわれる、または、これまで想定していなかった利益を得る可能性が新技術やサービスの登場で生まれ、それまでの意味が変化を余儀なくされると、それぞれの行為者がそれぞれの意味のあるレベルで満たすために、支配力の行使や正当性の主張などを行う。

そして、どちらかの主張が通るか、両者の妥協の結果、両者の意味が一定のレベルで満たされると、技術やサービスが普及する条件が揃う。逆に意味が一定のレベルで満たされなければ条件が揃わず普及しないこととなる。

このことから、新技術・サービスの成功条件として、利権・使用者両方の意味を一定のレベルで満たすこと、両者の正当性と支配の構造が、安定することが条件となる。逆に、利権側の意味、支配、正当性が満たされていない場合でも、使用者側の支配力が閾値を越える状況の場合、新技術・サービスの成功条件となることがわかった。

この分析により、適切なスクリプトで意味、正当性、支配に対し影響を与えることで、相手の構造を変化させることも可能であるといえる。例えば、今後のデジタルコンテンツ流通における合意形成や、違法コピーの撲滅キャンペーンなどにおいて、スクリプトコントロールにより、関係を安定化させるスクリプトコントロールの理論が可能となる。

インプリケーション

現在、急速な普及を果たした YouTube は、ナップスターにできなかった、IT 技術による著作権特定を実現し、当初、権利者と揉めていた使用料の支払いなど、利権側の要求を満たす動きを見せている。これは YouTube の意味の変化で関係が安定化しようとしていると分析できる。

また、Winny や WinMX といった共有・交換ソフトや、違法ダウンロードサイトの問題は解決できていない。利権側は、IT 技術の進化や法律の改正などで、支配力を強めコントロールしようとするが、相手が多数の場合、摘発など難しく、使用者側に意味の変化を起させにくい。使用者側の支配力が閾値を超えると、違法なサービスを使うことに正当性を持たれかねない。そのため、技術的、法的な支配だけでなく、著作権保護などの啓蒙活動を行い、正当性をもたれないようにする働きかけも重要であるといえる。

この研究の課題

ここまでは、従来の利権が利権を守るための論議であるが、インディーズなど従来の利権と直接は結びつかない新勢力が現れた場合、レコード産業内での利権同士の対立が生まれる。この時も経時的構造化フレームワークの適用により、両者間の構造の変化から、安定化する方向性を導き出せると考える。この時、旧勢力も構造を変化させ、新勢力に対応していく必要があることを想定しなければならない。今回、この点についての詳細な議論は行っていない。